コード No. 10361

Anti-Mouse
LEC26 (LA102) Rat IgG MoAb

容量 ： 100 µg

はじめに ： 近年、リンパ管内皮の特異的な抗原として LYVE-1 (Banerji ら、1999 年)、podoplanin (Breiteneder-Geleff ら、1999 年)、Prox-1 (Wigle & Oliver, 1999 年) などが次々に発見され、リンパ管への研究アプローチが飛躍的に進展しました。しかしその後、これらの抗原は組織や病態によってはリンパ管内皮以外にも発現し、これらに対する抗体は、その他の脈管、特に血管内皮などとも反応することが報告されています。本抗体は、アジュバントで誘導された良性のリンパ管腫を抗原とし、さらに免疫原性の弱いとされるリンパ管内皮上の抗原をより効率良く免疫する方法 (rapid differential immunization technique)を用いて作製された、血管内皮とは全く反応しない、リンパ管のみに対する特異性を持つ抗体です。ただし、一部の血球とは反応します。

免疫抗原 ： Mouse lymphangioma

起源 ： ラット×マウス ハイブリドーマ（培養上清）
(DA ラットリンパ節細胞 × X63 – Ag 8.653)

クローン名 ： LA102 サブクラス ： IgG_{2b}, κ

精製方法 ： 抗原特異精製

包装形態 ： 1 % BSA, 0.05 % NaN_3 含有 PBS 1.0 mL に溶解したものを凍結乾燥

再生方法 ： 精製水 1.0 mL 添加（この時濃度は 100 µg/mL となります）

保存方法及び安定性 ： 2～8°C 保存 5 年間安定
溶解後 -20°C 保存 2 年間安定

使用目的及び使用方法 ： 免疫組織染色 0.1～1 µg/mL にて使用可能 (新鮮凍結切片、アセトン固定 (室温 10 分)または 4 %パラフォルムアルデヒド灌流固定(室温 10 分以内))

特異性 ： マウスリンパ管内皮細胞の約 26 kDa の膜上タンパク抗原と反応します。
一部のリンパ系細胞とも反応しますが、血管系の内皮細胞とは反応しません。

交差性 ： human, rat, guinea pig とは非交差

文献 ：
1. Ezaki T, Kuwahara K, Morikawa S, Shimizu K, Sakaguchi N, Matsushima K, Matsuno K. Production of two novel monoclonal antibodies that distinguish mouse lymphatic and blood vascular endothelial cells. Anat Embryol (Berl). 2006 Oct;211(5):379-93.

株式会社 免疫生物研究所
E-mail: do-ibl@ibl-japan.co.jp
URL: http://www.ibl-japan.co.jp